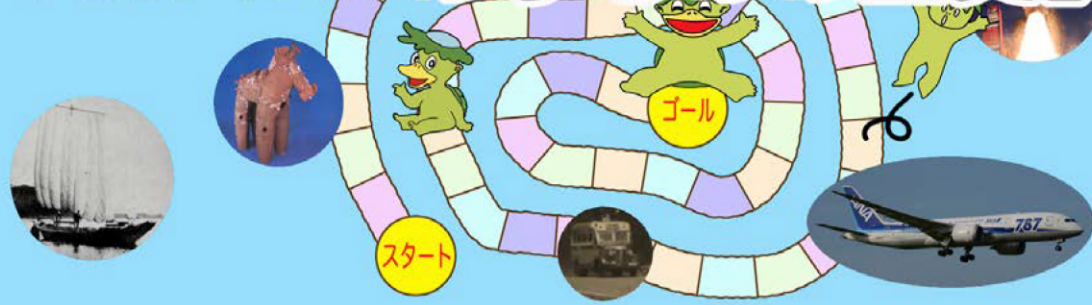


すてろクイズ「のりものの歴史」



日本は海に囲まれた小さな島国で、陸地は山地が多く、平地が少ないという特徴があります。そのため、陸地の道は平地である海岸沿いか、渓谷に沿った谷間や低い峠に作られました。一方、海に囲まれ、川の多い地勢のため、海や川を使った水の道は、船の発展とともに早い時期から進歩を遂げました。

こうした交通状況は明治期になり一変します。江戸の町から大名屋敷がなくなり、再開発がされ、道を広く取って乗合馬車や人力車、後に車などが走るようになります。また、鉄道も敷設され、今に続く車輪で走る乗り物の時代が到来します。西欧諸国から多くの乗り物が入り入れられて、交通は「早く、多く、遠くへ」人を移動させるための流れになっていきます。

本展示を通じ、ものや人を運ぶために、陸、川、海、空と人々はどんな乗り物を利用してきたかを学んでいただけますと幸いです。

日本のおもなりのりものの歴史

西暦	時代	船	動物	人力	馬力	線路	四輪車	二輪車	空
1万4千年前	縄文時代	舟							
紀元前4世紀	弥生時代	舟							
3世紀	古墳時代	舟	馬						
710年	奈良時代	舟	馬						
794年	平安時代	舟	馬	牛車					
1185年	鎌倉時代	舟	馬						
1333年	室町時代	舟	馬						
1573年	安土桃山時代	舟	馬	人力車					
1603年	江戸時代	舟	馬	人力車					
1868年	明治	舟	馬	人力車	乗合馬車	鉄道馬車	自動車	自転車	
1912年	大正	舟	馬	人力車	乗合馬車	鉄道馬車	自動車	自転車	飛行機
1926年	昭和	舟	馬	人力車	乗合馬車	鉄道馬車	自動車	自転車	飛行機
1989年	平成	舟	馬	人力車	乗合馬車	鉄道馬車	自動車	自転車	飛行機
2019年	令和	舟	馬	人力車	乗合馬車	鉄道馬車	自動車	自転車	飛行機

中世以前

日本に人が住むようになって最初のうちは、けものを追う狩猟生活をしていただけ、そんなに遠くまで移動したわけではないんだ。その後、徐々に定住するようになったし、基本的に移動は歩きだったよ。川や海を渡るには船を使っていたんだ。今から1500年くらい前には、のりものは馬と船が中心になるよ。でも、いっぱい移動するのは権力やお金のある人がほとんどだったんだ。



馬形埴輪 (境町歴史民俗資料館蔵)



牛車 (『年中行事絵巻』より 国立国会図書館蔵)

近世

山地の多い日本では、陸の道は海岸にそって川を渡るか、渓谷にそって谷間を進んだり、峠を越したりして徒歩で移動したんだ。近世は海と川の道が開発されたよ。陸の道では、権力やお金のある人は馬のほかに駕籠を使うようになったよ。



高瀬船模型 (当館蔵)



駕籠 (個人蔵)

近代

西洋では、日本が近代化する少し前に、産業革命で乗り物もいろいろと開発されたんだ。それらのりものは、近代になってすぐに入ってきて、国産のりものもその後すぐに作り始めたんだ。



通運丸模型 (当館蔵)



蒸気機関車 (『東京風景』より 国立国会図書館蔵)



自動車と路面電車 (『東京風景』より 国立国会図書館蔵)

現代

第2次世界大戦後は、軍事用から普通の人に乗るための様々なりもの開発が変わったよ。人はより早く、より多く、より遠くへ移動できるようになったんだ。



飛行機 (成田空港 当館撮影)



モノレール (千葉県庁前 当館撮影)

現代から未来へ

早さを求めている開発はまだまだ続いているよ。そして、地球から宇宙へと視点を広げての開発も行われているんだ。



リニアモーターカー (山梨県立リニア見学センター 個人撮影)



ロケット (JAXA)